

秦 金亮

(Qin Jinliang)



浙江師範大学

杭州幼児師範学院院長

1966 年生まれ。心理学博士。教授。浙江師範大学杭州幼児師範学院院長。中国教師教育学会幼稚園教師委員会理事長。中国心理学会教育心理学専攻委員会委員。浙江省就学前教育学会理事長。

2000 年中国吉林大学の心理学博士号取得。上海と香港で研究員を経て、現在浙江省師範大学杭州幼児師範学院院長を務める。近年、子どもの発達研究、認知発達神経科学などの研究に携わり、子どもの自伝的記憶における文化と神経の構築、子どもの発達における文化的安全性などの領域で独自の道を切り拓いた。

発達認知神経科学と早期教育(略訳)

子どもは何を学ぶべきか、何が学べるのか、いつ学ぶのか、どう教えるのが一番いいのか。これらは、全ての教育者が直面する最も基本的な問題であり、教育研究の永遠のテーマでもある。

また、どんな要素が子どもの発達に影響を与えるのかという問いは、発達心理学がずっと関心を注いできた問題である。近年、学問分野の間の垣根が取れ、子どもの発達は学問の枠を超えて研究されるようになった。そして、学問分野の視野が広がる中、特に子どもの心理と行動の発達の神経メカニズムが最も重要な基点の一つとなっている。

子どもの発達の本質から見れば、教育の根本的な目的は、子どもの心理に調和のとれた発達を促すことにある。心理の発達のバロメーターとは、バランスの取れた神経メカニズムの発達である。つまり、子どもの心理の変化は、全て神経メカニズムに根拠を見つげられる。これが、発達認知神経科学が、子どもの発達研究において重要視される理由である。

講演では、発達認知神経科学の3つの理論、「成熟理論」、「技能学習理論」、「交互式特化理論」を重点的に紹介する。発達認知神経科学研究は、研究倫理の制約と研究技術レベルの制限から、未だ子どもの心理発達の神経メカニズムを全面的に深く掘り下げ提示するには至っていないが、現在行われている早期教育に対して、以下の点を示してくれている。

1. 発達認知神経科学は、過去の「ブラックボックス理論」を改め、教育実践に堅実な科学的基礎を提供する。
2. 神経の発育・成長の可塑性は、早期教育の生涯教育における位置について科学的根拠を提供する。
3. 神経の発育成長の主な敏感期は幼児期にあるので、早期教育を重視しなければならない。
4. 神経の発育と脳の発育を促進するために、時期と内容のふさわしい教育環境を重視するべきである。
5. 発達異常の神経メカニズム研究は、早期特殊教育及び神経回復のために科学的根拠を提供する。

発達認知神経科学は、まだ始まったばかりだが、その理論的立場や思考方式、技術手段において旺盛な学問分野的生命力をしっかりと築いている。将来必ず、小児科学臨床的実践、早期教育の実践、子どもの社会福祉、子どもの看護のために、確実な科学的証拠と新しい発達理念をもたらしてくれるに違いない。